

森林吸収源インベントリ情報整備事業ブロック別地域講習会 西北海道ブロック（西北海道）

開催日：2013 年 8 月 27 日（火）

場所 北海道むかわ町穂別福山（調査地点コード 012050）

講師 相澤・橋本（徹）（森林総研北海道支所）、山田・橋本（昌）（森林総研本所）

概要

西北海道ブロックを担当する株式会社セ・プランの担当者 7 名を対象に地域講習会を実施した。うち、4 名はインベントリ調査経験があり、1 名は補助での経験があり、2 名はインベントリの調査は初めてということであった。今回は社内での講習もかねており、基本的にはインベントリ調査の経験豊富な社内の担当者が、初めての担当者の方を指導しながら調査し、時折森林総合研究所の研究員が指摘や相談をするという形となった。天候は朝のうち一時小雨、昼間は晴れ間も見られたが、結果的には夕方は小雨と雷に見舞われた。調査地は標高約 550m であり、林道入口からすぐ作業道跡に入り 500m 程度登った尾根近くの緩斜面でクマイザサが繁茂していた。

およその流れは、朝 9 時半に林道入り口に集合し、準備の後 10 時少し前に入山し、藪こぎ(主にクマイザサ)をしながら斜面を登り 10 時 35 分頃にクイを発見した。二班に分かれて枯死木調査を行い、11 時 55 分から 12 時半まで食事休憩を取った。その後も主に二班に分かれ、さらにその中で手分けしながら東西、南北の堆積有機物量・土壌炭素蓄積量調査を行った。16 時頃に雷が近づいた。最後の最後は、森林総研のメンバーも少し手伝うなどしながら、小雨の降る中 16 時 55 分頃にすべての調査を終了し、17 時 25 分に駐車してある林道まで下山した。その後簡単に挨拶をして解散となった。なお、立枯木、根株の全数調査では対象が存在しなかったため、測定法の講習は行わなかった。

経験豊富な担当者はインベントリの手法をよく理解しており、また何が重要でなぜそうしなくてはならないか、というこちらの意図をよく理解しており、それを未経験の担当者に的確に伝えていた。また、サンプリングも丁寧であり、さらには独自に工夫をした道具（土壌断面を掘る間、土がかからないようにリター採取予定地にかけるカバー等）を所有していたり、個人が縮小版マニュアルを所持しているなど、この事業への真剣で丁寧な取り組みが感じられた。また、安全にも十分配慮している点も非常に感心させられた。また、以前の講習会でこちらが強調したポイントをしっかり理解していた。訂正が必要な場合は講師が指摘し、マニュアルを開いて確認した。また、枯死木の分解度判定など、感覚的な判定が必要な項目を講師とともに確認した。何点か指摘した点を挙げると、調査開始までに時間がかかり試料採取の終わりが大急ぎとなった。初回の調査でもあり、装備や調査手順の確認に時間を要するのはやむを得ないが、次回以降は時間配分に注意して欲しい。堆積有機物採取時に緑葉を除外していたが、緑葉であっても落葉であれば L として採取する。円筒採取時にナイフを多用する人や剪定ばさみのみを使う人がいるなど、好みに

よって道具の使い方に偏りが見られた。能率良く正確に採取するためにはペティナイフ、出刃包丁と剪定ばさみを適切に使い分けることが必要である。2層目以下の化学性試料採取時に奥行きを大きくしたため採取量が多くなり、混合、分取に手間取っていた。奥行きを大きくしすぎると深さ方向に均一に採取するのが難しくなることもあるので、適切なサイズで採取する必要がある。なお、0～5cmの試料採取時に、去年は採取に制約の多い円筒を先に採取するよう指導したが、今年はマニュアル通りに化学性試料を先に採取するよう指導した（円筒採取時に化学性試料採取場所に土が被ることを避けるため）。また、5～15cm深度の化学性試料はなるべく幅50cmから採るよう心がけることを指摘した。

講師の側も、指導を行う上で要点を的確に伝えるとともに、なぜそうしなくてはならないかを丁寧に伝えることが、担当者の習熟と技術向上につながると感じた。また、昨年から引き続き参加している担当者は、昨年からのマニュアルの変更点に多少混乱しているようであったので、指導側としては変更点をなるべく減らすとともに、丁寧に説明していくことが必要と思われた。最後に、今回は最後の1時間程度を雷の鳴る中で行った。雷時の安全対策についても今後考えていく必要があると思われた。



入山前の挨拶。リーダーが安全面も強調していた。



円筒採取も丁寧に行われていた。



アプローチの途中、比較的新しい熊の足跡を発見。熊にはくれぐれも注意。



土壌は、ほとんどレキがない。しかし、第1, 2層は根が多かった



クマイザサが全面に生えているので、作業が若干しづらい。(ラインインターセクト法による枯死木調査)



最後は、雷の鳴る中の講師も手伝っての作業。かなり恐ろしい。